

平成24年度 林業専用道技術者研修(九州ブロック第1回)

場 所:熊本県八代市 八代市厚生会館

期 間:平成24年8月27日～29日 3日間

参加者:県職員9名、市町村職員1名、森林組合職員11名、森林管理署職員9名、計30名

○開講に当たり、九州森林管理局の濱田指導普及課長から「路網整備の推進は、森林・林業再生の柱の一つであり、その推進には技術者の育成と確保が必要です。

この研修で林業専用道の考え方や技術を身につけ、九州の林業専用道の牽引役となっていただきたい。」との挨拶がありました。



【1日目】

1. 講義

研修の最初は、九州森林管理局吉田講師より「新たな路網の整備について」として森林・林業再生プランの概要のほか、路網整備の考え方や林業専用道作設指針の内容を中心として、講義が行われました。



2. 現地研修の準備

現地研修の準備として、

- ①既設作業道を林業専用道として開設する場合の見直すべき点
 - ②新たに林業専用道を開設する場合の線形の検討
- を設計図書や原図、写真を用いての検討を5班に分かれて行いました。

(各班での検討状況)



1班



2班



3班



4班



5班

【2日目】

現地研修

(1) 既設作業道の「1444 作業道」を踏査して、林業専用道として新設する場合の改善点等の検討を行いました。

① 線形の検討



(切土高を抑えられないか、線形について検討)



(線形の位置を変えて縦断勾配を緩勾配に出来ないか検討)

② 工種・工法の検討



(沢部の洗越工や表面排水の横断溝では、施工位置や工法などの検討)

③ 1444作業道での研修生からの主な質問

- 線形が全体的に勾配があるため起点、終点の位置を検討して緩勾配としてライフサイクルコストの軽減を図る必要があるのではないか。
- 洗越工の呑口から吐口への方向を谷方向としたがよいのではないか。
- 全体的に路面の排水処理が少ない。
- 一部区間で波形勾配を採用すべきではないか。
- NO.35 付近は中心線を川手側へ移動し切高を抑える必要があるのではないか。 等



(2)完成している林業専用道「庵ノ山 1447 林道」を踏査して、線形及び設計上の留意点等を検討しました。
また、講師から新設ルートを選定上のポイント等について、比較資料により説明が行われました。

① 線形の検討



(起点の進入口を確認)



(上下方の傾斜を確認して通過ポイントを確認や森林作業道の接続箇所等を検討)

②排水処理の検討



(排水処理について検討)



(沢部の排水処理について検討)

④1447林道での研修生からの主な質問

- 一部区間で波形勾配を採用すべきではないか。
- 排水施設の流末の布団かごが小さいのではないか。
- 簡易横断溝(止水エース)はゴム板が低いのではないか。
- 呑口保護は二段布団かごを利用したらどうか。
- 土場の広さはどれぐらい確保すべきか。 等



【3日目】

1. 現地研修の取りまとめと発表

(1)1日目の図上検討と2日目の現地踏査の結果をもとに最終路線を各班で取りまとめ、発表を行いました。

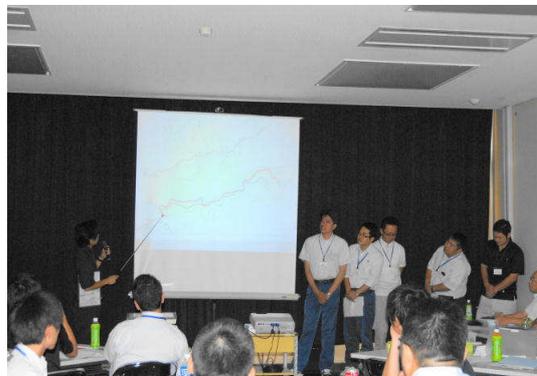
① 各班での最終取りまとめ



② 各班の発表

図上で検討した線形と現地踏査により見直した最終線形について、修正した点や通過ポイントの説明が行われました。

図上の検討と現地踏査によって、各班、より地形のよい箇所を通過する線形となり、コスト面や森林施業など総合的に検討した発表となりました。



③ 発表に対する質問

研修生から、各班の発表に対して費用対効果や波形線形、排水施設についての意見のほか、森林作業道の接続等についての質問が出されました。



2. 設計の振り返り

森林テクニクス熊本支店の辻本講師により、研修の振り返りとして「林業専用道の設計のポイント」などについて講義を受けました。



3. 総括

研修を振り返り各講師より、

1. 経済性や耐久性、利便性等、総合的な検討
 2. 現地踏査の重要性
 3. 設計は受注者まかせにしない
 4. 互いに情報交換を
- 等の総括がありました。

研修生の皆さん

